



変わる小樽、変わらない小樽。いや、変わらない光景も、訪れる毎に変わっている。空の色、風の感触。遠くから近くから聴こえる音。その全ての要素が『街』。



この街が重ねてきた毎日のことを、心のどこかで想ってみる。セピア色の写真も、色褪せたカラーの写真も、その瞬間には鮮やかな、いまこの瞬間だったと思う。



街のそこそこにある、鈍く光る光景。そのどれもが、この街のいまこの瞬間。いつか自分が誰かがこの写真を見ると、遠ざかるいまと自分のいまは、つながる。



そう信じて街を撮ることは、やっぱり楽しい。この街だからこそ撮れる日々の光景がある。まだまだ歩き足りない。もっともっと撮れる。そんな街が、小樽。

